

関西でSDGsプラットフォームが発足

国際協力は情熱と明るさで

2017年12月、「関西SDGsプラットフォーム」と「関西SDGs貢献ビジネスネットワーク」が、全国に先駆けて発足した。18年3月には、これらのキックオフ会が開かれ、320人の参加者を集めた。この盛り上がりの背景には何があるのか。京都大学の木村亮教授が、関西で活発化するSDGsへの取り組みと、政府開発援助(ODA)を超えた途上国事業について、語った。

大阪万博のテーマにも

日本は現在、2025年に開催される国際博覧会（万博）において約半世紀ぶりとなる大阪開催を目指しており、さまざまな誘致活動を展開している。この大阪・関西万博のテーマは、「SDGsが達成された社会」と、「日本の国家戦略Society5.0」だ。Society5.0とは、これまでの工業社会、情報社会に続く新たな経済社会を指しており、その社会の中では経済的発展と社会的課題の解決が両立されていると考えられている。

こうした中、関西SDGsプラットフォームは、SDGsの達成に向けて関西の民間企業、市民社会、NPO・NGO、大学・研究機関、自治体・政府機関といった多様な

アクターが参加するプラットフォームとして設立された。当面の目的は、①「関西において広くSDGsの重要性をアピールし、浸透させていくこと」、②「多様な分野のアクターが集うことで新たなネットワーク・連携関係が構築され、SDGsの達成に資する新しいアイデアや取り組みにつなげること」の二つだ。

SDGsの達成には、民間の技術・知見・資金の活用が不可欠であり、民間セクターが地球規模の課題解決に大きく貢献することが期待されている。ここ関西でも、自治体、民間企業、市民社会や大学・研究機関といった幅広いアクターが、水分野・医療分野・防災分野・ものづくりをはじめ、多様な分野で有用な技術・経験を有し

ており、我が国のみならず開発途上国を含めた世界規模でSDGsの達成に資する潜在性を有している。

関西SDGsプラットフォームの構想は、そういった幅広いアク

ターの多様な経験・知見を相互に結びつけることで、持続可能な社会の構築に向けた新たな取り組みを創出できるのではないかとの考えから生まれたものだ。伝統を守りつつ、新しいものを生み出す進取の気性に富んだここ関西の地において、こうしたプラットフォームの設立は未来志向の取り組みをますます盛り上げていくだろうと期待されている。

関西と言えば…

3月22日、関西SDGsプラットフォームの最初の分科会が開かれた。そこでは、ビジネスの視点からSDGsの推進を目指す「関西SDGs貢献ビジネスネットワーク」のキックオフ会合が行われた。会合を主催したのは、近畿経済産業局だ。国際協力機構

(JICA) 関西と関西広域連合と共に開催した。筆者も、この会合で行われた討論会のモダレーター兼パネリストとして参加した。

会場では、お堅い話ばかりが出てくるのかと思いきや、紹介されたのは、“お笑い”のエキスパート、吉本興業（株）の取り組みだった。

吉本興業は、「2030年を笑顔



3月22日に開催された「関西SDGsプラットフォーム」キックオフ会合

であふれる世界に！」というキャッチフレーズの下、『国際社会の一員としてSDGsに賛同し、“笑顔”につなげる活動を通じてより良い国際社会の実現に貢献・応援する』という目標を掲げている。筆者もその活動内容はよく知らなかつたが、会合で吉本芸人による白黒のPR映像『SDGsについて考えはじめた人々』が上映されたり、17人の吉本芸人が2分間でSDGsの17の目標をそれぞれ歌う『SDGsのうた』がWEBページで紹介されているのを見て、SDGsにかける吉本興業の本気度を感じた。まさに関西風の未来志向の取り組みを一層盛り上げていく活動であり、大きな拍手を送りたい。

きみの「眉間」は大丈夫か

筆者は土木工学の研究者であり、特に構造物を支える地盤の力学特性を研究している。怒られるかもしれないが、国際協力は趣味として25年間、関わっている。

他方、本業として国際協力に携わっている多くの関係者は、途上国支援に一生懸命であるが故に、眉間にしわを寄せて自分を追い込んで仕事をされている。難しい横文字の、一般の人には理解できない用語を並べて、難解な議論しているのだ。

筆者が今まで出会った有意義な活動をしている人々は、自分の仕事を非常に楽しく語ってくれる。例えば、キックオフ会合で発言者として参加された(株)わだまんサ

イエンスの深堀勝謙代表取締役は、「胡麻で世界平和」と、明るく話されていた。同社はパラグアイで胡麻を生産している。深堀氏は、「世のため人のために夢を持つことはとても未来があり良いこと」だと信じており、それを文章にして具体的な行動に移されている。「できない理由よりできる理由を探そう」という言葉が好きで、「ゴマソムリエ」なる言葉を編み出し、会合でも調理士の衣装で白いコック帽をかぶって会場に現れた。デパートの催事では、ゴマソムリエ深堀氏自らが胡麻用の杵臼で手づくりした杵つき胡麻を振舞い大行列ができる。だが、中小企業として自己資金だけで海外事業を継続していくのには限界もあり、現在、JICAの中小企業海外展開支援制度を用いて飛躍を図っている。そんな深堀氏の眉間に、しわはない。

現地のニーズを知ること

国際協力という観点からSDGsを見ると、大事なのはやはり現地に赴き、現地のニーズを知り、具体的な問題の解決策を考えることに尽きる。現地のニーズを知らない限り、日本人らしいきめ細かい活動はできない。

さらに重要なことは、関係者が情熱を持って取り組むことだ。たとえプラットフォームを作り、色々な業種・立場の人間が集まつたとしても、情熱がなければ何も起こらない。

関西のNPOや中小企業に関し



京都大学大学院 工学研究科 教授
(特活)道普請人 理事長

木村 亮氏

京都大学大学院工学研究科修士課程修了。京都大学助手・助教授を経て、2006年より同大学国際融合創造センター教授、2010年より工学研究科教授。07年、土のうを使った開発途上国の道路整備を行なう(特活)道普請人を設立し、その理事長を務める

て言えば、私が知る限りでも、地面の上に立てた高床式の環境衛生式トイレ、子ども兵の社会復帰と住民の職業訓練、母子手帳を活用した健康推進、天然素材を利用した水質浄化といった、発想を転換した多種多様な取り組みが実施されている。「さまざまな業種・業態の企業に活発に議論してもらえる場を作り、多様な企業間連携の形成とイノベーティブな共同事業構想の創出を促進する」という関西SDGsプラットフォームの目標も、上記の問題意識の担い手がいる限り達成可能で、“関西パワー”を近い将来示すことができる信じる。

*関西SDGsプラットフォームWEBサイト;
<http://kansai-sdgs-platform.jp/206>

**吉本興業のSDGsの取り組み;
<http://www.yoshimoto.co.jp/sdgs/>